

前兼久ハーリー

今年は五月二十九日（旧暦：五月四日）に前兼久ハーリーが行われます。村内で「字行事」としてハーリーが行われているのは前兼久のみで、仲松弥秀著の『恩納村誌』には「大正十年頃から字行事として行われるようになった」とあります。由来については諸説あるようですが、前兼久公民館の『部落年中行事表 字前兼久』という資料には

昔の人達（明治十六、十七年に出生した方々）の話によると、区のハーリー行事の始まりは明治三十四年旧七月十六日に二才達（成人会員）がアシビナーに集まり、ニンブチャー酒（エイサーの翌日の反省会で飲む酒）を飲む席で、なんとなくハーリーの話が出て、ハーリーを漕ぐことに決まり、その翌日組分けをして漕いだのが始まりで、その翌年からは日時も旧五月四日に漕ぐことに改めたという。



前兼久ハーリーの見物者たち→



←ハーリーで盛り上がる婦人たち

とあります。

新年度になると前兼久ハーリー実行委員会が発足し、ハーリー本番までの休日には船造り（船体確認）、櫂や備品等の確認、スロープ清掃、追い込み漁（来賓へ提供する魚の捕獲）、会場設営など、一気に慌ただしくなります。婦人会も美化作業や、本番前日からの調理、当日の接待を行うなど、区民一帯となってハーリー行事を盛り上げます。先述の『恩納村誌』には「アガリ川根の拝所

で午前九時頃からの海幸祈願、しかる後に男女若者は浜まで行列。十時頃からハーリー競争の行事が行われる。」と記されており、これは現在でも変わらず行われています。実行委員会や漕ぎ手、区民が東川根の拝所にて手を合わせ、ハーリーの安全祈願を行います。その後みんなで太鼓やドラを鳴らし、道ジユネーをしながら竜宮神まで移動し、再度拝みを行います。拝みが終わると「御願ハーリー」が行われ、職域ハーリー、転覆ハーリーと続きます。

